

# 大田市教育魅力化プロジェクト

令和5年度活動報告書

大田市教育委員会  
学校教育課 学事・魅力化推進室



# 目次

〈大田市の教育の魅力化について〉	
○大田市の教育の魅力化	▶ p.1
○教育魅力化グランドデザイン	▶ p.2
○取組の柱	▶ p.3
〈高校魅力化〉	
○大田高校の教育魅力化 総合的な探究の時間	▶ p.4
〈おおだ教育魅力化推進会議〉	
○おおだ未来☆夢ランド	▶ p.5
〈育てたい子ども像を共有する体制づくり〉（よこの連携）	
○コミュニティ・スクールと地域学校協働本部事業	▶ p.6
○ふるさと教育	▶ p.7
〈学びの場づくり〉（よこの連携）	
○おおだ共育共創ラボ（ダイコウラボ）	▶ p.8
○大田市中学校拡大生徒会	▶ p.9
○理系女性ロールモデルによる出前授業	▶ p.10
〈幼・小・中・高の連携推進〉（たての連携）	
○幼小連携・接続	▶ p.11
○学力育成（小・中連携）	▶ p.12
○東京演劇集団 風	▶ p.13
○ふるさと夢未来講演会	▶ p.14
〈情報発信〉	
○おおだ教育月間	▶ p.15
〈教育の魅力化 用語解説〉	▶ p.16



令和5年度の各事業の取組を活動報告書にまとめました。教育魅力化コーディネーターを中心に様々な取組を進め、その取組を通して、新たな連携・協働の場面が増えました。

今後も学校・家庭・地域・行政が地域総がかりで学びを支え、教育環境の整備及び支援の充実を図る、「おおだの教育魅力化」を推進していきます。



## 大田市の「教育の魅力化」でめざすもの

ふるさとを愛し、持続可能なおおだを創る、心豊かな人づくり

### 「教育の魅力化」の目的

大田市がめざす人材の育成に向け、地域総ぐるみで0歳から18歳までの育ちに関わり、切れ目のない教育活動を推進するために、学校・家庭・地域・行政の連携を図りながら、魅力的な教育環境の整備及び支援の充実を図ります。

### 「教育の魅力化」を進めるにあたって

#### ◆ 大田市は・・・

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」を有する本市は、ユネスコの精神に基づき、「一人一人の人權が尊重される、心豊かな共生社会」の実現を目指しています。平成28年には、「ふるさとを誇り、大田と世界の未来を拓く」を基本理念とした「大田市教育ビジョン基本構想」が策定し、「生き抜く力を育てる」「あるものを活かす」「地域を支え、創る」を基本方針として取組を進めています。

学校や地域では、先人から受け継いだ、歴史・自然・文化などの大田市の宝を豊かな教育資源として活かしたふるさと教育が推進され、子どもたちのふるさとへの愛着や誇りにつながる貴重な学びとなっています。

#### ◆ 大田市が抱える課題は・・・

大田市は進行する人口減少による児童生徒の減少、少子高齢化、市内県立高等学校への進学率の低下などの状況から、「このままでは持続可能な大田市が創れない」という深刻な地域課題に直面しています。未来に向かって、持続可能なおおだを創っていくためには、子どもも大人もふるさとに誇りや関心を持ち、関わっていこうとする気持ちを育んでいくことが大切です。

子どもたちにとって、魅力的な大人との出会いや関わり、学校での学びを地域で実際に試しながら自分の答えを見つけ出していく経験は、これからの時代に必要な主体性や協働性を高め、生き抜く力を育みます。また、大人も子どもたちとの関わりや学びの協働を通して、ふるさとへの思いを新たに、地域の様々な物事を次世代への継承していく意欲を高めたり、主体的に地域を支え、創っていこうとする態度を育んだりすることにつながります。そして、これらの取組が、子どもも大人も豊かな学びや健やかな成長となり、地域の活力につながっていくことを期待しています。

#### ◆ いざ、「教育の魅力化」推進へ・・・

大田市では、0歳から18歳までの子どもの育ちや学びの充実を図ることはもとより、学校・家庭・地域・行政が手を携えて、地域総がかりで学びを支え、子どもたちが地域の大人との関わりの中で育つ、教育環境の整備及び支援の充実を図る「おおだの教育魅力化」を推進していきます。そして、「かかわる」「ふみだす」「はぐくむ」をキーワードに、未来志向の教育の視点を入れて、「幼児教育・学校教育の魅力化」・「地域の魅力化」に取り組めます。

#### かかわる

一人一人が自分のこととして考え、多くの人と関わり、対話し、だれもが主体性をもって取り組もう。

#### ふみだす

新しい発想やチャレンジ精神をもって、だれもが一步踏み出し、自分や地域・世界の未来を創造しよう。

#### はぐくむ

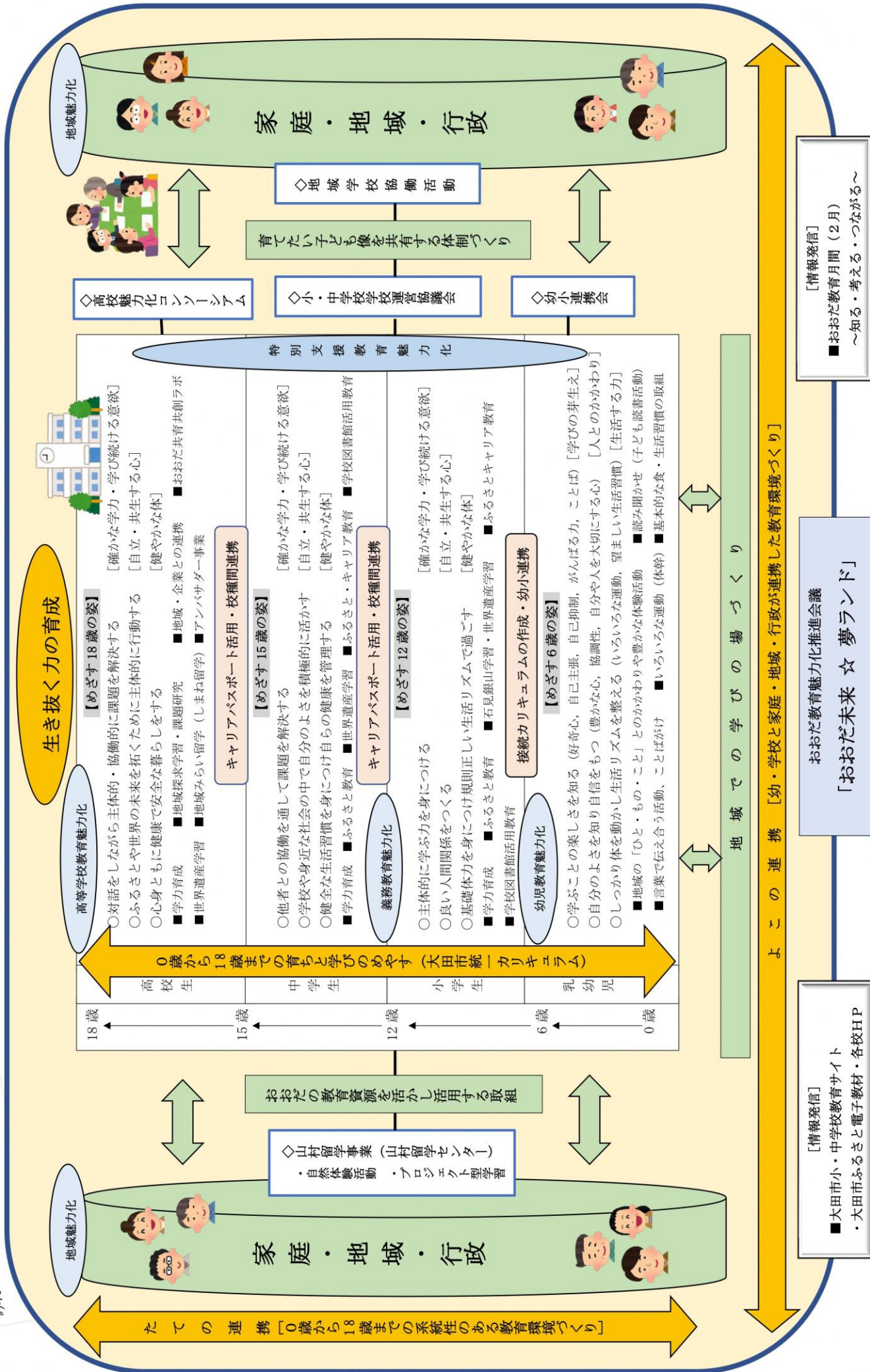
ふるさとを愛する気持ちを力に、未来に向かって、みんなで共に歩む人づくりに取り組もう。

# 教育魅力化グランドデザイン

『子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち“おおだ”』

ふるさとを愛し、持続可能なおおだを創る、心豊かな人づくり

【大田市教育魅力化グランドデザイン】



おおだ教育魅力化

取組の柱

『ふるさとを愛し、持続可能な おおだ を創る、心豊かな人づくり』

0 歳から 18 歳までの学び (大田市統一カリキュラムの活用)

[生き抜く力を育てる教育環境づくり]

- ① 幼児教育の魅力化
  - ・ 幼児教育研修 (幼小合同) ・ 子ども読書活動 ・ ことばによる伝え合い
  - ・ 地域の「ひと・もの・こと」とのかかわりや豊かな体験
- ② 義務教育の魅力化
  - ・ 授業改善 ・ 本物にふれる学習環境の整備 ・ 地域に関わる学習の充実
  - ・ ふるさとキャリア教育 ・ 学校図書館活用教育 ・ ことばによる伝え合い
- ③ 高等学校教育の魅力化
  - ・ 学力育成 ・ キャリア教育・探究学習 ・ 地域・世代間交流
  - ・ 情報発信 ・ しまね留学 ・ オープンスクール
- ④ 特別支援教育の魅力化
  - ・ 連続性のある多様な学びの場の充実 ・ 特別支援教育に関する教職員の専門性の向上
  - ・ 就学前から学齢期、社会参加までの切れ目のない支援体制づくり



タラの連携 (幼・小・中・高の連携)

[0 歳から 18 歳までの系統性のある教育環境づくり]

- ① 系統的な学習プログラムの実施
  - ・ ふるさと教育・石見銀山学習・ふるさと教育担当者会
- ② 子どもの交流の場づくり
  - ・ ふるさと夢未来講演会・中学校拡大生徒会
- ③ 大人の連携の場づくり
  - ・ 小中高教職員合同研修会 ・ 幼小連携会



ヨコの連携 (学びの協働)

[幼・学校と家庭・地域・行政が連携した教育環境づくり]

- ① おおだの教育資源を活かした活動
  - ・ 地域を学ぶ講座 ・ 伝統芸能・文化の継承 ・ 地域を知る
- ② 育てたい子ども像を共有する体制づくり
  - ・ 学校運営協議会 ・ 高校魅力化コンソーシアム
  - ・ 地域学校協働活動との連携 ・ 幼小連携会
- ③ 地域での学びの場づくり
  - ・ おおだ教育未来講演会 ・ おおだ共有共創ラボ

情報発信

- おおだ教育月間
- 大田市小・中学校教育サイト
- 大田市ふるさと電子教材
- 各校 HP

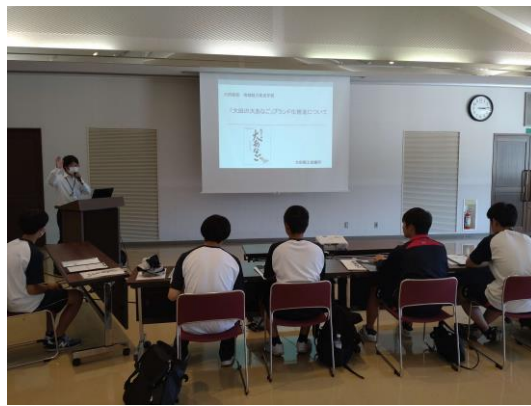
【事業の目的】身近な地域のひと・もの・ことを学びの素材に、体験活動や実際に地域の方と協働して課題解決型学習を行う。

地域の魅力や地域・社会の課題の探究を通して、自分が地域の一員として「やりたいこと」「できること」を探す。

【事業の概要】

1年生普通科：地域魅力発見学習

日 時	【第1回】 令和5年10月4日(水) 5～7限 (13:30～16:20) 【第2回】 令和5年11月8日(水) 5～7限 (13:30～16:20)
対 象	第1学年 普通科(1～3組) 88名
内 容	大田市内各所を会場として、地域の方を講師とする講座を受講し、地域の方からのお話を聴いたり、体験したりすることで、地域の魅力的なものを知る。
目 的	地域の大人との出会いや体験活動を通して、大田の豊かな人・もの・ことに触れる。 そして、その出会いや体験を、内省や対話によって振り返ることで、自分自身や地域社会への理解を深め、2年生での地域課題解決学習につなげていく。
目 標	地域(大田市)の魅力的なものを知る。
市の関り	今の大田市の現状を知ってもらうため、さらにより良い探究学習にするために高校と地域の方とのつなぎ役として活動。



2年生普通科：地域課題解決型学習「ダイコウプロジェクト」

目 標 探究る(もぐる)～社会とつながり、自ら動く～地域の中の課題を自分事として考え、身に着けた力を活かして、自ら行動する。

年間スケジュール

- 5月：オリエンテーション
- 6月：探究学習講演会(講師：島根大学大学院教育学研究科准教授 中村怜詞氏)  
課題設定①
- 7月：課題設定②, フィールドワーク準備, 第1回フィールドワーク(地域調査)
- 9月：第2回フィールドワーク(地域調査)
- 10月：第3回フィールドワーク(地域調査), 中間発表準備
- 11月：中間発表会、フィールドワーク準備
- 12月：第4回フィールドワーク(地域調査), 成果発表会準備
- 1月：成果発表会準備, 探究学習成果発表会全グループ発表
- 2月：探究学習成果発表会代表発表, 1年のまとめ・振り返り

市の関わり 伴走者

- 役 割： 担当班の生徒の探究活動の伴走支援(今年度は25名に依頼)
- 期 間： 1年間※授業への参加は、課題設定、中間発表会、成果発表会、フィールドワークとし、その他の授業については任意での参加を依頼
- 連絡方法： 授業時間外の担当班との情報交換ツールとしてLINEWORKSを利用



【事業名】

「おおだ未来☆夢ランド」

- ・大田市における教育について、多様な立場の関係者が主体的・創造的な議論を行い、大田市の子どもや大人の豊かな学びや健やかな成長を支援し、大田市における教育魅力化の一層の推進を図る。

【事業の目的】

- (1) 未来志向の教育に関すること。
- (2) 一人一人の人権を大切にする教育に関すること。
- (3) 地域とともにある学校づくり、地域の特色を活かした学びに関すること。
- (4) その他、教育の魅力化推進のために必要と認められること。

以上の事項について審議し、具現化することをめざす。

【事業の概要】

- 期日 第1回：令和5年7月6日（木） 10：00～12：00  
第2回：令和6年1月22日（月） 10：00～12：00
- 会場 市役所・4階大講堂
- 委員 大田市における教育に関心があり、教育の魅力化推進に貢献できる者14名
- テーマ 第1回：「大田市内の高校の取組～小・中・高の連携による一体的・系統的な学び～について」  
第2回：「バーチャル空間が創る新しい学びの可能性」について

【コーディネーターとしてのかかわり】

会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式をとっています。そのため、各委員の出欠確認を含めた連絡調整をはじめとして、会議実施以前の準備には万全を期すようにしました。各種資料提供、会議テーマの事前周知等、限られた時間を実のあるものにできるよう努めました。

【成果】

\*大田市と高校の今後の関わり方について

『大田市のことをよく知る地域の大人が、高校生に働きかけ地域に出していく。そのためには地域側から高校内に入り、関係を築くことで地域と高校がつながる、いわゆる橋渡しの役割を魅力化コーディネーターにお任せしたい』とお願いがありました。教育委員会と高校が繋がりを持ってはじめて0歳から18歳までの子どもの育ちや学びの充実が図れると再認識し、今後はこれまで以上に密に連携をとり、より良い関係を築いていきたいと考えます。

\*バーチャル空間が創る新しい学びの可能性について

バーチャリオン(株)代表取締役社長兼CEO五十里翔吾様および代表取締役副社長兼COO小林祥一様から、石見銀山資料館内に「世界遺産石見銀山ミュージアム支店」を設置したことについてや、バーチャル映像を用いた取組をご紹介いただきました。委員からは、大田市には国立公園三瓶山、多数の文化遺産、海があり、大田市全体が美術館、博物館だと思えるので、バーチャルの技術は、きっかけにすぎず種まきとしてバーチャルを活用し、その先に実体験、フィールドワークを入れるのであれば良い教育ツールになると思う。など、バーチャルを活用した教育の実現可能性をご提言いただき、今後の大田市教育のさらなる魅力化に向けた新たな動きの始動となるような会議となりました。

【担当者から一言】

幅広い委員の参加に対応するために、オンライン会議の形態をとっています。オンライン参加の方が聞き取りづらい部分があったり、マイクの不具合があったため、設備環境を整えたくうえで当日の運営に努める必要がありました。また、テーマの設定によって継続可能な取組の協議ができるため、年度当初において方向性は明確にしておく必要があると感じました。

【来年度に向けて】

3年目となる来年度は、様々な分野で活躍されている委員みなさまからご意見ご提言をいただき聞くだけでなく、実現したことを見える形にしていける必要があります。予算や人材の確保など、簡単には解決できない問題も多々あるが、引き続きできることから具体的に進めていきたいと考えています。



第1回 会議の様子



第2回 会議の様子

【事業の目的】

学校と地域が連携・協働して学校運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進め、社会に開かれた教育課程の実現を目指します。

【事業の概要】

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会制度を導入した学校のことを指します。学校と地域住民・保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」をより推進するための仕組みであり、令和4年度には全ての小中学校に導入されました。

大田市には、世界遺産をはじめとして日本遺産・自然・歴史・文化と誇れるものがたくさんあり、子どもたちはそれらの地域資源「ひと・もの・こと」に触れながら多くの学びや体験をしています。

一方で子どもたちを取り巻く環境も変わり、これからの時代を生き抜く力を育んでいかなければなりません。また、学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校だけで解決するのは難しいこともあります。

市としても、人口流出や少子化から様々な課題を抱えており、このままでは持続可能な大田市が創れない状況にあります。

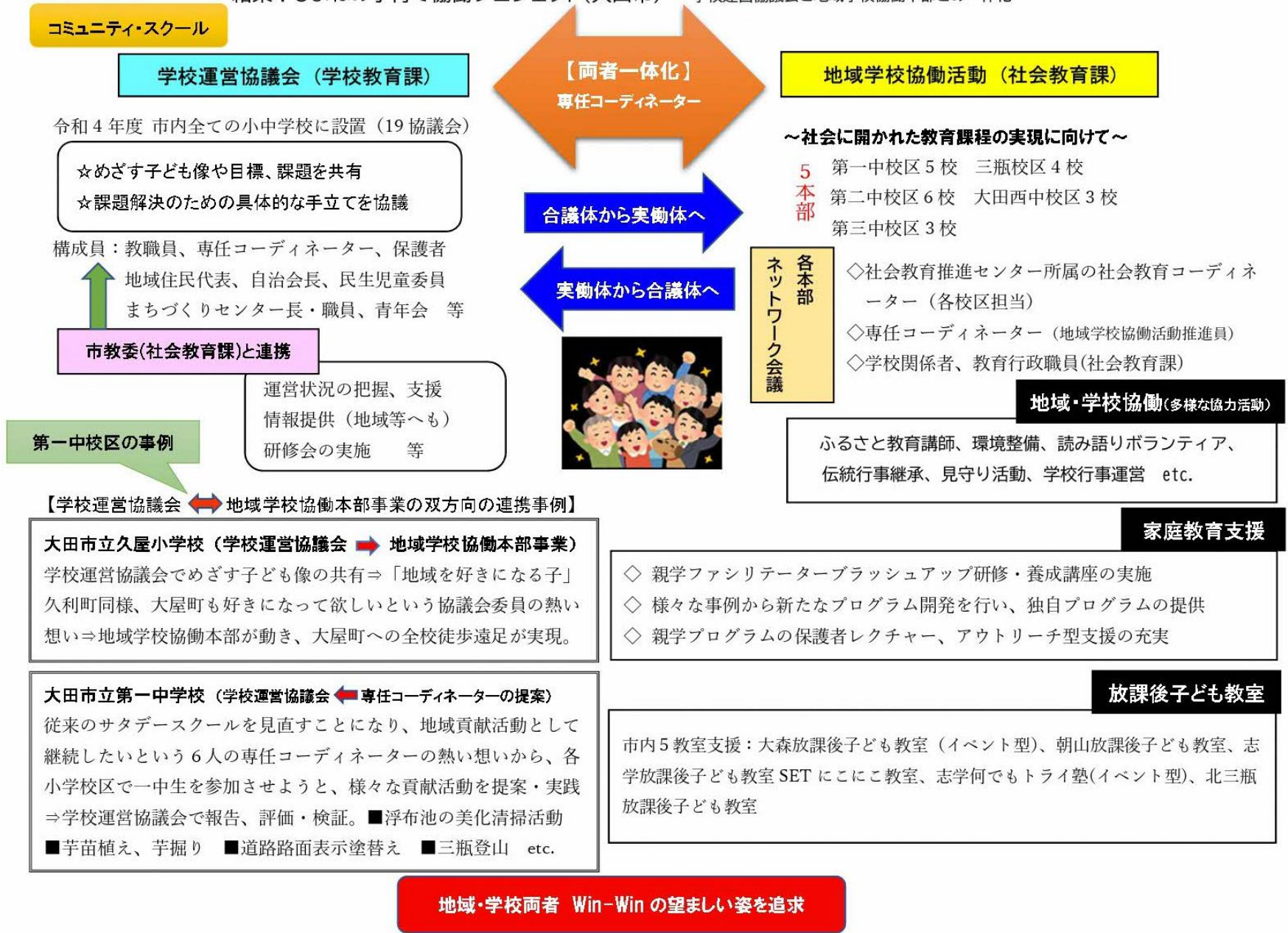
持続可能な大田市を創っていく、未来の担い手となる子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、教育や人づくりに力を入れていかなければならないと考えます。学校・家庭・地域・行政が地域総がかりで手を携えて、子どもたちの豊かな学びを支えていく必要があります。

そこで大田市教育委員会では、下記のポンチ絵のように「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」とふるさと教育推進事業を支えている「地域学校協働本部事業」は両者一体であると捉え、双方向の連携により社会に開かれた教育課程の実現を目指しています。

学校運営協議会制度により、「めざす子ども像」やビジョンを学校と地域で共有し、「そのために学校・家庭・地域ができることは何か」と具体的方策を考えるなど、学校運営に地域の声を積極的にいかにすることができます。それにより、地域と一体となって、特色ある学校づくりを進めていくことができます。

そして、地域・学校両者のWin-Winの望ましい姿を追求していきます。

結集！しまねの子育て協働プロジェクト(大田市) ～学校運営協議会と地域学校協働本部との一体化～



【担当者から一言】

学校サイドは本事業によって地域から多くの支援をいただき、Winの姿を既に獲得していますが、一方で地域サイドはどんな姿をWinと捉えるのかという宿題をいただきました。学校運営協議会で協議したことを地域学校協働活動に反映させることによって、地域ボランティアが生き生きと活動できたとか、伝統行事の担い手不足の折に小学生が手を挙げ、若い継承者の誕生に地域が安堵したなど、両者Win-Winの姿が垣間見られるようになりました。両者のこのような姿を今後も大いに期待したいと思います。

1. ふるさと教育の視点

- (1) 児童生徒がふるさと教育を通して、ふるさとへの愛着や誇りだけでなく、地域への貢献意欲や実行力へと高められるようにしていくこと。
- (2) 地域の大人も、子どもの成長に関わることで、次世代の育成を行いながら学び続ける姿勢を持つようにしていくこと。

2. ふるさと教育の目標

(1) 児童生徒

大田市の「ひと・もの・こと」を知り、地域資源を活かした体験活動を通して、ふるさとへの愛着や誇りを育みます。また、地域の課題を知り、地域の未来を考えることを通して、自分がどのように関わり、貢献していくかを考え、行動しようとする態度を育てます。

- ① 地域の「ひと・もの・こと」との関わりを通して、ふるさとへの愛着や誇りに思う心を育てる。
- ② ふるさとへの理解を深め、地域に貢献しようとする態度を育てる。

(2) 地域の大人

子どもの学びに関わることを通して、地域の良さを伝えながらふるさとへの理解促進につなげます。さらには、社会教育での学びを通して地域の未来を考え、主体的に地域を支え、担い、創っていかうとする態度を育みます。

- ① 地域に関連する様々な物事を継続して学び、次世代への継承意欲を高める。
- ② 主体的に地域を支え、創っていかうとする態度を育む。

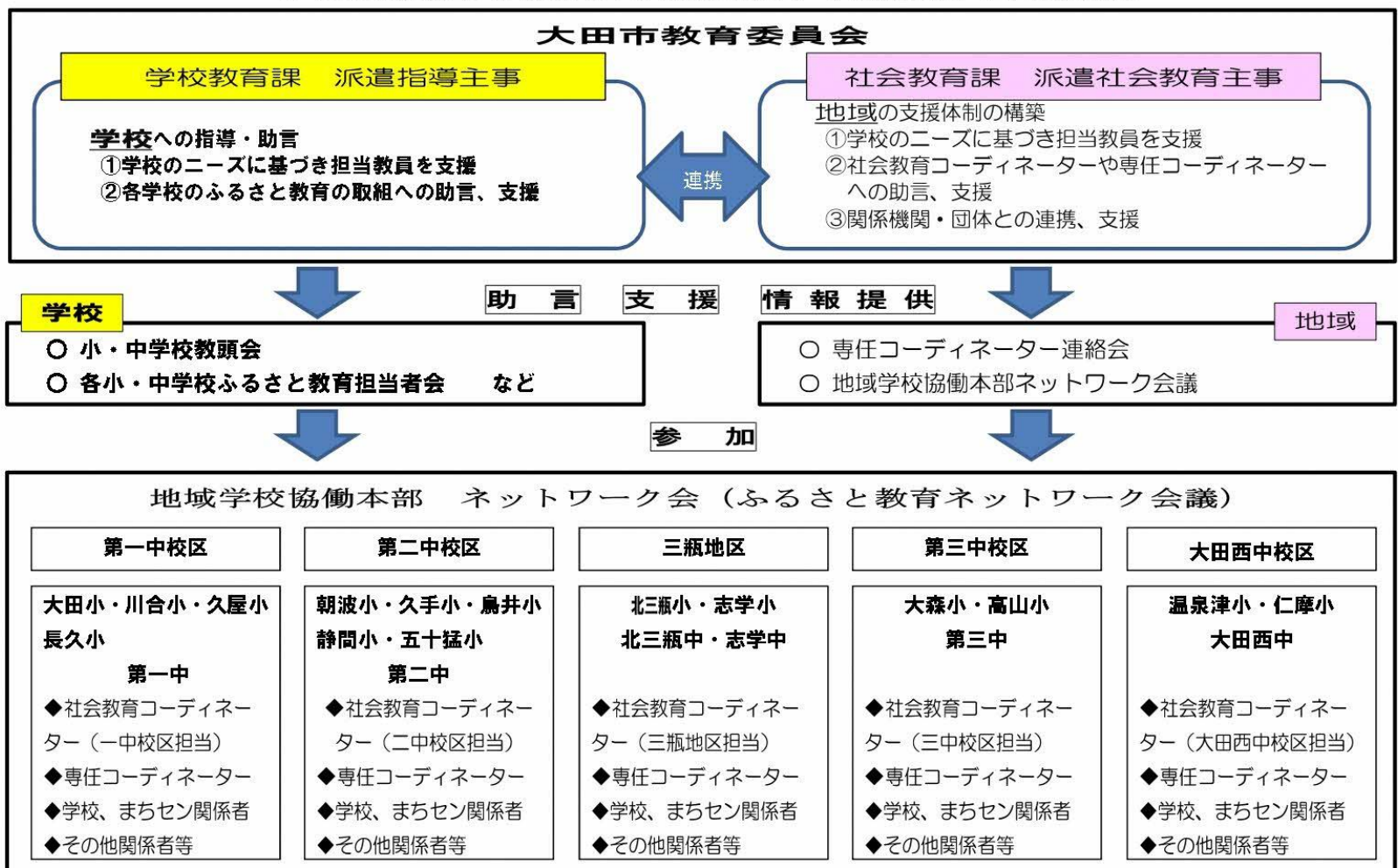
↑

**地域学校協働活動(ふるさと教育を支える柱)**

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、幅広い地域住民の参画により、学校・家庭・地域が連携・協働しながら地域総がかりで子どもたちの成長を支えていく活動です。そして連携・協働の推進にあたって重要な役割を果たしているのが、各校に配置されている専任コーディネーターで、大田市のふるさと教育を大いに支えています。

## 令和5年度 大田市ふるさと教育推進体制

### ふるさと教育推進事業(大田市教育委員会 学校教育課・社会教育課)



## 【事業の目的】

高校生と地域の大人が共に育つ地域、教育コミュニティをつくる。

## 【事業の概要】

ダイコウラボとは、多様な出会いの機会の創出と、高校生と地域の大人が一緒になって、高校生が考える身の回りの課題解決や「こんなことをやってみたい」という思いを実現する場である。

## &lt;今年度ダイコウラボで生徒たちが行ったプロジェクト&gt;

## ▼あなごプロジェクト(地域の企業と連携)

2年生1名が大田市を代表する食材“大あなご”を使った商品開発を試み、「大あなごの春巻き」を商品化しました。11月11日（土）にごいせ仁摩で行われた大田商工会議所主催「大あなごフェス」にて、勝部商店さんのご協力のもと出店販売をしました。プロジェクトメンバー以外に大田高校から2名の生徒にお手伝いをさせていただきました。大盛況の中、当初の販売終了時間より1時間ほど早く150本完売しました。最初は不慣れな点もあってあたふたしていた高校生も時間と共に販売に慣れ、途中からは頼もしく感じられとても生き生きと活動していました。お客様からは「とても美味しかったからまた販売してね」など様々な感想をいただきました。



## ▼空き家プロジェクト(地域の大人と連携)

3年生8名が高校の近くにある使われなくなった空き家を地域の方と協力して、リノベーションに取り組みました。天井と壁に貼る板をカットし、打ち付けたり、クロスを貼ったりと、大田市内の工務店や材木店の方の力をお借りして空き家改修をしました。

改修後は、大学生との交流イベントを開催しました。



## ▼バズギフトプロジェクト(企業と連携)

「森田製菓(株)×ダイコウラボ」コラボ商品 あんころ餅の新パッケージが完成し、8月9日（水）の発表会では3年生2名が商品開発までの経緯等を市長に説明しました。大田高校阿部校長先生も交えて、高校生が作成した商品PR動画を視聴し、試食会では、味変として「味付け海苔×あんころ餅」を食べていただき、感想も含め質疑応答が行われました。島根県内で販売中です。



## ▼e-sportsプロジェクト(地域の大人と連携)

12月10日（日）「ODA GAME FESTIVAL」が大田商工会議所において開催され、計200人以上の方に来場していただきました。メインイベント「ぷよぷよ大会」では、実況・解説を島根住みます芸人の奥村隼也さんと大田高校2年生の郷原潤之介さんのふたりで行い、小学生の部、フリーの部ともに大変盛り上がりしました。

大田商工会議所青年部、ダイコウラボメンバー、大田市共創推進プロジェクトチームの3チームが数々の話し合いや苦労を経て、一致団結をして取り組んでいったことで大盛況で終わることができました。



## 【担当者から一言】

今年度も、たくさんの生徒・地域の方、企業様にご協力いただきダイコウラボの場づくりを行うことができました。

地域の方々のご意見に対し高校生がどう思い、どう考え、どう今後に活かすのかがそれぞれのプロジェクトをやるうえで大きな意義だったと思いました。子どもたちを支える地域の方の存在があるからこそ実現できる活動だと思っています。地域の皆様、今年度も大変お世話になりました！

## 【事業名】

「大田市中学校拡大生徒会」

## 【事業の目的】

- (1) 市内中学校の生徒会役員がそれぞれの思いを交流することで、生徒同士が互いに刺激し合える機会とする。
- (2) 自校生徒会の取組方針を中心として意見交換をすることで、生徒会の計画と今後の実践をよりよくしていこうとする意欲を高める。
- (3) 大田市の中学校として連帯感を高める。

## 【事業の概要】

- 期 日 令和5年10月13日（金） 16:00～17:00
- 会 場 大田市役所 4階 議場
- 参加者 各校生徒会執行部（3年生）5名以内（各校引率者1名ずつ）、大田市議会議員、市長、副市長、教育委員 等
- 内 容
  - ・教育長進行のもと、下記テーマについて、生徒自身の思いや考え方を発表する。
  - テーマ1： 昨年度の拡大生徒会を受けて、自校の生徒会で取り入れたこと、成長した点等、『我が校イチオシの取組～よかった点・悪かった点』の発表
  - テーマ2： 市議会から生徒に対する質問コーナー&生徒から市議会・市長への質問・意見発表コーナー
  - テーマ3： 通いたい学校ってどんな学校？（外観ではなく中身）

## 【コーディネーターとしてのかかわり】

昨年度は、ウェブ会議の形式をとりましたが、今年度は新たな刺激を受けてもらうために議場で開催しました。議場での開催だったので生徒の輸送、レイアウト、会場準備の段取りに努め、限られた時間でしたが、ねらいの達成に向けた実のある事業になるよう努めました。

## 【成果】

活発な意見交換が行われ、昨年度同様、他校の実践を取り入れようと感じた生徒が多く、刺激を得るとともに視野を広げる機会にもすることができました。小規模校ならではの活動や大規模校ならではの活動を再認識することができ、それによって従来の活動よりさらに良いものができる可能性が広がりました。他校とのコラボ企画をしたいなどの意見があり、他校との交流をもっと行いたい、拡大生徒会というものを今後も継続して開催してほしい、さらにもっと充実したものにしてほしいと期待している生徒が多くいました。

## 【担当者から一言】

今年度は議場での開催、さらに市長をはじめ議員の方々の前での発表ということで、最初は生徒も緊張の面持ちでしたが、徐々に緊張も解け、積極的に質疑応答に参加できていました。生徒にとって、大きな舞台上でその場で考え、受け答えをするという経験ができ、非常に貴重な時間になったと思います。

## 【来年度に向けて】

後日生徒の感想はいただきましたが、議員の方々からの感想や意見をいただけていないので、来年度は感想や意見をいただく方向で検討するべきだと感じました。会の後半盛り上がりを見せ、まだまだ話し足りないように見受けられたので、来年度はもう少し長い時間を確保するべきだと感じました。議場での開催は生徒に好評であったため、次回も議場で行いたいと思います。



## 【事業名】

「理系女性ロールモデルによる出前授業」

## 【事業の目的】

多様なロールモデルを示すために内閣府からの委嘱を受けた理工系分野で活躍する女性から、理工系の魅力を直接聞くことで、理工系分野への興味関心を醸成する。

## 【事業の概要】

○日時 令和5年10月13日（金）14:10～15:30

○会場 大田市立第一中学校 体育館

○参加者 第一中学校全学年生徒 409名、教職員、教育委員  
市議会議員（総務教育委員会）、教育長、部長および関係職員○講師 **STEM Girls Ambassador 杉本 雛乃 さん**  
■ 東京大学大学院工学研究科バイオエンジニアリング専攻  
■ 2018 ミス・インターナショナル日本代表  
■ 今年度講演実績：佐賀県立到遠館中学校

○演題 「夢実現へのチャレンジ」



杉本 雛乃 さん

## 【成果】

- ・現代社会を支える理科や数学の大切さを学ぶ機会を設け、理工系分野への関心を持ってもらうことができました。
- ・東京大学大学院に在籍し、ミス・インターナショナル日本代表に選ばれるなど多方面で活躍されており、生徒たちが視野を広げる機会となりました。
- ・「とりあえずやってみる精神」を大切にしたいという言葉の重みを生徒たちひとり一人が感じ、苦手な勉強を頑張ろうと思う貴重な時間となりました。

## 【来年度に向けて】

- ・生徒たちの心に残り、かつ行動に移せる有意義な内容となる講演会が開催できるよう計画したいと考えています。

## 【感想】

- ◆「やらない後悔よりやった後悔のほうがよい」という話にあったように、何事もやらずに後悔しないようにしたいと思いました。
- ◆「やってみる精神」でこれからいろんなことに挑戦していきたいです。研究は自分が思っていたよりも、とても面白そうだったので興味がわいてきました。
- ◆英語を覚えたいと思っていて、お話の中にあった映画や洋画で英語を覚えることをやってみようと思いました。
- ◆頭がいい勉強ばかりの人なのかなと思ったけど、ドラマが好きだったり、ミスコンで日本代表になったりしていて、親近感がわきました。大学の時に役立つように、今から勉強をしっかりとっておこうと思いました。
- ◆世界で初めての研究を成功させ、とてもすごいことだと思いました。科学は難しいイメージがあるけれど、そんなイメージを変えさせてくれる講演会でした。
- ◆苦手を強く苦手と思うのではなく、できるかもと思ってやってみると将来時間をかけてできるようになるかもしれないと分かったので、苦手な教科を頑張ってみようと思いました。
- ◆すべてのことを成し遂げるためには、友だちが必要になってくるので、友だちのすごいところを見つけて、どうやったらそんなに上手にできるのかアドバイスをもらったりして、勉強を頑張ろうと思いました。
- ◆何事も挑戦が大事ということを知って、積極的に地域のイベントや漢検、英検など受験してみようと思いました。
- ◆私は、反論されたり自分の意見を否定されたりすることがこわく、活動に積極的に参加することが苦手です。でも講演会で、「意見は反対でもその人の人格を否定するのは違う」と聴いて、私が不安に思っていたことがその言葉によって「自分ができることにコツコツとチャレンジしていこう」と思えました。貴重な機会をありがとうございました。



幼小連携・接続に係る取組

【事業目的】

○幼児教育施設から小学校への円滑な接続を目指して双方の教育について理解を深め、幼児期の育ちや学び、経験を児童期へ確実につなげていけるよう連携・接続を図る。

【大田市幼小連携・接続ビジョン】

1. 大田市の幼小連携・接続の目的
  - (1) 「学びに向かう力」の育成
  - (2) 小学校生活への生活不適應の未然防止
  - (3) 特別な教育ニーズの早期支援の開始
2. 大田市の「架け橋期に期待する子どもの姿」 （「架け橋期」…5歳児から小学校1年生までの2年間）
  - (1) 架け橋期に育てたい力は… 「学びに向かう力」・「かかわる力」・「生活する力」
  - (2) 架け橋期に期待する子どもの姿は… 『自分の思いや考えをもち 人とかかわりながら楽しんで学ぶ子ども』
  - (3) 大切にしたい「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」は… 「思考力の芽生え」・「協同性」・「言葉による伝え合い」
3. 大田市の幼小連携・接続の取組
 

(1) 幼児教育と小学校教育の相互理解	(→ 合同管理職会、合同担当者会、合同研修会の実施)
(2) 架け橋カリキュラム作成に向かった取組	(→ 合同管理職会、合同担当者会の実施)
(3) 保育・授業の質の向上	(→ 公開保育研修会、生活科授業研修会の実施)



【事業概要】

1. 幼小連携・接続に係る学校訪問（4～6月）
  - 1年生の学びや生活の状況を把握し取組の充実を図るため、市内15小学校の訪問を行う。
    - ・1年生の学校生活の様子を観察
    - ・授業参観 1年「生活科」等
    - ・情報交換「架け橋期の子どもの姿」について
2. 幼小連携・接続に係る合同管理職研修会
  - 第1回合同管理職研修会（7月11日）（講師：県幼児教育センター指導主事）
    - ・講話・演習 「なぜ幼小連携・接続が必要か」
    - ・校区別グループ協議 「校区の幼小連携・接続で大切にしたいこと、やってみたいこと」
  - 第2回合同管理職研修会（2月27日）（講師：県幼児教育センター指導主事）
    - ・「大田市の幼小連携・接続ビジョン」について
    - ・講話・グループ演習 「架け橋カリキュラム編成に向かって」～「言葉による伝え合い」を視点に～
3. 幼小連携・接続に係る合同担当者研修会
  - 第1回合同担当者研修会（3月8日）（講師：県幼児教育センター指導主事）
    - ・「大田市の幼小連携・接続ビジョン」について
    - ・講話・グループ演習 「架け橋カリキュラム編成に向かって」～「言葉による伝え合い」を視点に～
4. 幼小連携・接続に係る合同研修会 （講師：県幼児教育センター指導主事）
  - 第1回（7月31日）、第2回（8月1日）、第3回（8月9日）、第4回（8月18日）合同研修会
    - ・5歳児クラスの保育参観
    - ・グループ演習 「子どものステキな姿・保育について」
5. 子ども保育課・学校教育課の連携会

【参加者の感想】

- ・幼児教育施設での体験（遊び）を通じた追求経験を小学校でもしっかり活かしていきたい。
- ・園で行っている保育と小学校の活動を同じ視点で比較できたことは、双方のつながりを考える上で有効であった。
- ・現在のカリキュラムを幼小連携・接続の視点で、学校と保育園が協働して見直していきたい。

▼ 合同管理職研修会の様子



▼ 合同研修会 グループ協議の様子



▼ 公開保育の様子



幼児教育施設の取組

- 公開保育（講師：浜田教育事務所指導主事）
  - ・幼児教育の質の向上を図るため、大田市内16園の幼児教育施設で「公開保育」を行った。
  - ・保育を公開し、保育参観をして協議をする「公開保育」を行った。
  - ・子どものステキな姿を見取り、「環境」・「保育士の関わり」の面から意見交換を行った。

【参加者の感想】

- ・自分達では気づけない自分の園のよさや子どものよさに気づけた。
- ・保育を認めてもらい、モチベーションに繋がった。他園の保育を見ることでよい刺激になった。
- ・自分の保育の振り返りになる貴重な研修会であった。

## 「大田市学力育成プラン」の取組

### 【事業目的】

- 大田市の児童・生徒に「確かな学力」と「学ぶ意欲」を育むために、校種・教科等を超えて教職員がつながり、共通の視点で授業力向上を図る。
- 大田市では、島根県事業「しまねの学力育成プロジェクト事業」（R4～R6）を受け、昨年度より、学力育成の新たな取組を行っています。

### 1. 授業改善

○現行学習指導要領の趣旨を実現する『能力ベースの授業づくり』を視念に、教職員が校種・教科等を超えてつながり、授業改善に取り組む。

- ・学校訪問通覧指導
- ・授業づくり講座
- ・おおだ教育講演会
- ・学力育成担当者会



▲授業づくり講座  
・教材研究会  
・授業研究会



▲おおだ教育講演会（座談会）「学び続ける教師」

### 3. 家庭学習の充実

- 授業と家庭学習を結ぶ工夫を行い、家庭学習の質を高める。
- ・学びの動機づけや目的のある内容
- ・取組の共有（校内、家庭との連携）

### 4. 理科読（りかどく）

- 身近なテーマをもとに子どもの科学的探究心と言葉を育む。
- ・身の周りのふしぎから探究へと進める。
- ・観察や実験・工作等の体験と本の読み聞かせや関連本との出会い等の読書活動を結び付けた学習プログラムの実践



▲理科読5年 電気プログラム  
「いろいろな発電」



▲理科読4年 水プログラム  
「すがたを変える水」



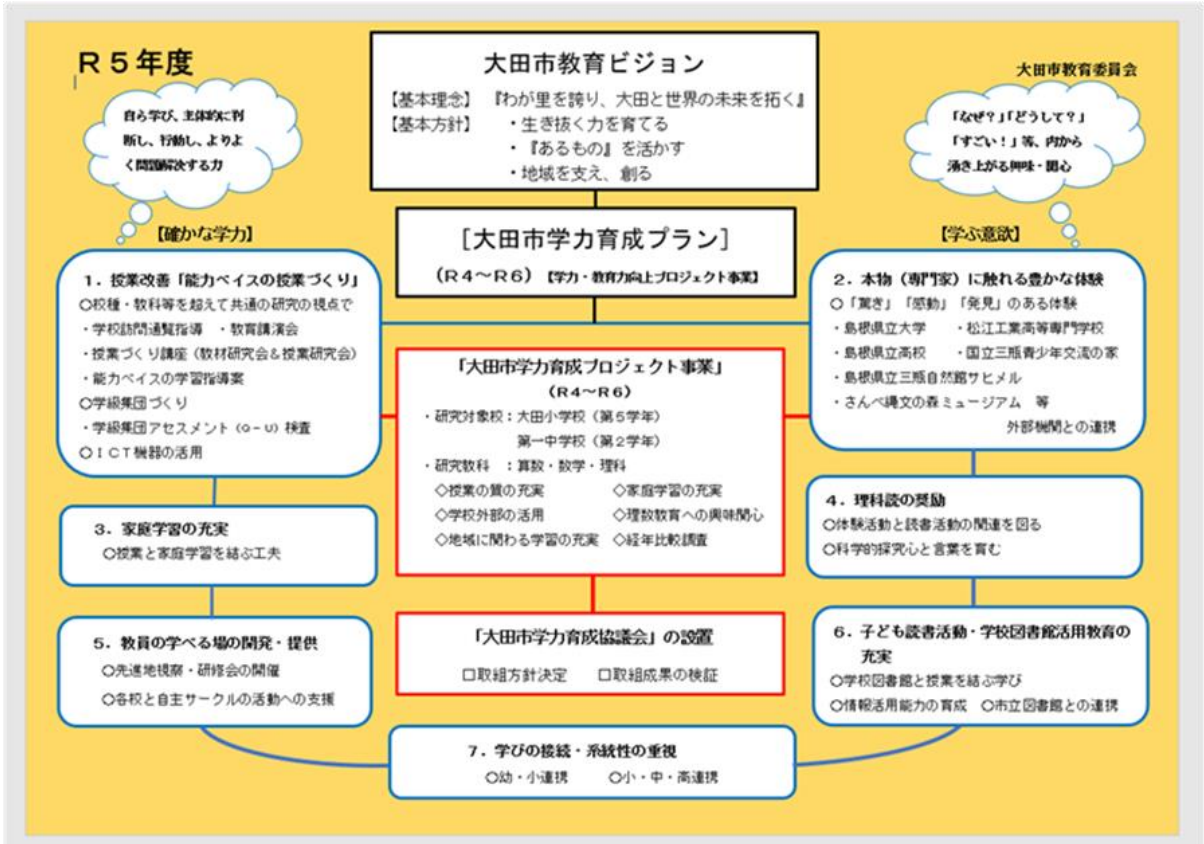
▲理科読2年 乳プログラム  
「乳には栄養がいっぱい」

### 5. 教員の学べる場の開発・提供

- 先進地視察や自主研修会、研修資料の情報発信を行い、自ら学ぼうとする教員、学校を支える。
- ・学びの情報発信  
「学力育成に係る資料のデータベース」の作成
- ・先進地視察
- ・自主研修サークル「らとう会」



▲自主研修会「らとう会」



### 2. 本物（専門家）に触れる豊かな体験

- 「驚き」「感動」「発見」のある豊かな体験を大切にした探究的な学びの充実を図る。
- ・外部関係機関との連携した学習
- ・石見銀山学習、世界遺産学習
- ・地域に関わる学習（ひと・もの・こと）



▲三瓶自然館サヒメル学習プログラム



▲松江工業高等専門学校  
出張授業、出張講座  
「飛行機」「ロケット」



▲いわみプログラミング  
少年団  
「プログラミング学習」

【事業名】

東京演劇集団 風 『 Touch～孤独から愛へ 』 公演

【事業の目的】

子供たちに対し質の高い文化芸術を鑑賞する機会を設け、子供たちの豊かな創造力・想像力や思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し優れた文化芸術の創造につなげること。

【事業の概要】

○期日 令和5年 6月20日（火） 午前の部 9：30～12：00  
午後部 13：30～16：00

○会場 大田市民会館大ホール

○演目 『 Touch～孤独から愛へ 』

○出演者 イワミアーツプロジェクト 竹内大樹さん、東京演劇集団 風

○参加者 市内17小中学校 合計919名

【午前の部】

学校名	学 年	児童・生徒数	職員数	合 計
五十猛小	5,6年	27	4	31
静間小	3,4,5,6年	44	8	52
鳥井小	3,4,5,6年	28	4	32
朝波小	3,4,5,6年	51	6	57
川合小	4,5,6年	46	4	50
久屋小	5,6年	15	3	18
高山小	3,4,5,6年	20	4	24
温泉津小	5,6年	35	4	39
仁摩小	5,6年	57	3	60
第二中	2年	80	8	88
計		403	48	451

【午後部】

学校名	学 年	児童・生徒数	職員数	合 計
大田小	5,6年	138	6	144
久手小	4,5,6年	96	5	101
北三瓶小	全学年	13	5	18
北三瓶中	全学年	11	5	16
志学中	全学年	9	8	17
第三中	全学年	11	10	21
第一中	1年	141	10	151
計		419	49	468

【公演当日の様子】

午前の部、午後部ともに400人以上の児童生徒が参加するなか、「風」のスタッフの方々と引率の教員の協力のもと、児童生徒全員が舞台上の見学を行いました。そこでは物珍しそうな表情や関心を示す声が見受けられました。演劇中は静粛に鑑賞し、クライマックスには大きな拍手で幕を閉じました。

【各学校からの感想や意見】

- ・演劇・芸術というものに対する興味や関心が高まったと思う。
- ・事前にいただいたポスターを、帰校後生徒が眺めていた姿が印象的だった。
- ・かなり間近で生の演劇を見ることが初めてという児童が多く、見終わってからも「ここが面白かった」「ここがすごかった」と話す子が多かった。
- ・「学習発表会や連合音楽会に向けての見通しや意欲を高めることができた。」と多くの児童の日記等から見る事ができた。
- ・演劇を通して、人を大切にする心、困っている人に寄り添う大切さを学んだようです。
- ・画面越しではなく、生の演劇に触れることができ、リアルな舞台設定や演技の迫力に刺激を受け感動していた。
- ・舞台の上に上がらせていただき、たくさんの方がステージから見えて、これだけの人の前で大きな声で表現する劇団のみなさんに刺激を受けていた。
- ・舞台裏も見せていただいたので、小道具や音響、照明の仕事などにも興味をもった児童がいました。また、手話通訳、音声ガイドなどの役わりへの関心も高かったです。
- ・他校の児童とも話題を共有し、コミュニケーションの輪を広げる機会の一助となったように感じた。
- ・舞台は迫力がありよかったが、話の内容が小学生には少し難しかったように思う。



【事業名】

「ふるさと夢未来講演会」

・将来の「ふるさと」を担う人材育成をめざした「おおだ教育魅力化推進事業」のなかの中学校・高等学校交流事業

【事業の目的】

中学生と高校生が自分の未来社会の実現に向け、夢を実現した実践者の話を聞き、互いの感想や未来への夢を語り合う場をもつことで、「夢をもつこと」「夢の実現に向かって努力すること」の大切さについて学ぶ。

【事業の概要】

- 期 日 令和5年6月16日（金） 14:00～15:40
- 会 場 邇摩高等学校 体育館
- 講 師 内閣府 地域活性化伝道師 UROCO代表 伊東将志氏
- 演 題 『みんなで創る大田の未来 ～好きなコトを仕事にする～』
- 参加者 会場参加370名、オンライン参加はなし（高校生246名、中学生124名）

【コーディネーターとしてのかかわり】

今年度は、邇摩高校、大田西中、大田三中の3校に邇摩高校体育館で会場参加をしていただきました。講師の方のお話を聞いた後、中学生と高校生を混ぜたグループを作りワークショップを行いました。中・高連携を意識したワークショップを行うことで、中学生と高校生の交流はもちろん中学生も高校生自身も高校生の活躍を直接感じることができるようになりました。さらに、録画を講演会後に早期に視聴できるようにしたことで、事前に指導者が確認し、校種や学年・学級の実態に応じて活用できるようにしました。

【成果】

大田市と同じような規模の町で、地元の良さの発信等で活躍されているお話が、生徒の皆さんには身近に感じられて、今後の人生を考えるきっかけを与えることができました。非常にわかりやすく、多くのパワーワードをちりばめた内容に、多くの生徒が興味を持って聞いていたことがうかがえました。ワークショップでは、高校生と中学生の交流を実現し、さらにグループ内で発表することで自主性を促す実践もできました。

【担当者から一言】

ワークショップでのグループ分けや中学校から高校までの往来にかかる調整等、生徒の皆さんに対する配慮を十分に行うことや、撮影等の関係上、会場の環境を細かく把握しておく必要があると感じました。学校との連携にも力を入れ、スムーズな運営に努めたいと思います。

【来年度に向けて】

子どもたちが未来の目標に向かって進む際に、強い意志や考えを持って進める一助になるような講演会になるよう取り組みたいと思います。今回は、学校の協力があって滞りなく終えることができたので、来年度も学校に協力していただくようあらかじめお伝えします。学校の学びだけではできない新鮮な驚きや刺激を与えるために、引き続き事業の充実を図りたいと思います。



## 【事業の目的】

大田市民の教育に対する関心と理解を一層深めるとともに、次代を担う子どもの育成を期し、家庭、学校及び地域社会が連携して大田市の教育の充実と発展を図るために、「おおだ教育月間」を設けた。

大田市教育委員会は、学校、教育に係る機関及び団体、事業者並びに市民等と連携し、その協力の下、おおだ教育月間の趣旨に沿った取組を実施するとともに、広く市内への普及を図り、市民による主体的な取組を促進するものとする。

## 【事業の概要】

テーマ 「大田の魅力ある教育 ～知る・考える・つながる～」

### 教育に関わる取組を配信

○配信期間 ぎんざんテレビ（ケーブルテレビ） 令和6年2月5日（月）～23日（金） 土曜日・日曜日はダイジェスト版を放送  
大田市公式YouTubeチャンネル 令和6年2月28日（水）～令和7年2月末

○内 容 大田の子どもたちの活躍と教育に関わる魅力的な取組を皆さんに知っていただくため、子どもたちの学びや表彰の様子を動画にまとめ、ぎんざんテレビや大田市公式YouTubeチャンネルでお届けしました。

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 久手小学校 「見つけよう 大田や久手の宝物～アナゴ編～」                  | 温泉津小学校 「温泉津だいすき、ゆのつっ子！」       |
| 川合小学校 「安全マップづくり・非常食づくり」                       | 志学小学校 「魅力いっぱい志学～志学のひと・もの・こと～」 |
| 第一中学校 「一中3年生 ラジオ番組制作体験」                       | 志学中学校 「SST（志学さいこうタイム）の取組」     |
| 大田幼稚園 「幼稚園はわくわくがいっぱい」                         | あすなる教室 「不登校児童生徒の学びの場」         |
| 出雲養護学校大田分教室 「出雲養護学校大田分教室の紹介をします♪」             | 出雲養護学校瀬摩分教室 「瀬摩分教室（高等部）の仲間たち」 |
| 県立大田高等学校 「普通科 地域課題解決型学習発表代表」                  | 県立瀬摩高等学校 「学校紹介」               |
| 人権推進課 「おおだふれあい会館の移動隣保館について」                   | 子ども保育課 「大田市のかわいい子どもたちを見てね！」   |
| 山村留学センター 「山村留学生、どんなことしてる？（週末編）」               | 社会教育課 「仁摩図書館について」             |
| 学校給食センター 「♪瀬摩高校コラボ献立♪「多国籍料理で食文化を学ぼう」」         |                               |
| 教育部総務課 「令和5年度 鈴木賞表彰式」、「令和5年度 大田市教育委員会表彰」      |                               |
| 石見銀山課 「石見銀山学習と石見銀山基金」、「ふるさと そして 未来」作文コンクール授賞式 |                               |

### おおだ教育フェスタ

- 日時 令和6年2月18日（日） 13：00～16：00
- 場所 島根県立男女共同参画センター あすてらす
- 内容
- ①大田市教育委員会感謝状 贈呈式
  - ②取組発表「未来を創る おおだの子どもたち」
    - ・学校教育課 「大田市の幼児教育施設・小中学校の取り組み」
    - ・大田高校
      - 遠藤ルツさん 「今からできるフレイル予防～高齢者Aさんの食生活を通して考える～」
      - 鈴木晃人さん 「大田留学について」
    - ・瀬摩高校
      - 石橋結生さん、井藤風香さん、亀島 怜さん「アスパラダイス～まだおいしく食べられるを追求～」
      - 永田寛人さん、尾崎叶多さん、辻 優美さん「瀬摩高フェアへの取組」
  - ③おおだ教育未来講演会 講師：品川 明さん 演題：「食を通して五感とところを磨く～感じるとおいしくなる魔法～」



### 〈感想〉

- ★感謝状の贈呈式では、こんなに多くの方々や団体が教育活動を支援してくださっていることを知ることができ良かったです。
- ★幼・小・中・高の取組から、発達段階において大切にされている学びを感じることができました。幼稚園での土台が高校での主体的な探究につながると感じました。
- ★大田高校・瀬摩高校の発表は、日頃高校生の発表を見る機会がなかったので、課題解決や実践に向けた取組を知りことができ、探究を深めていることが感じられました。大田を知り大田を好きになることが、将来にわたって大田に貢献したいという思いに繋がることも感じました。
- ★ただの栄養学ではなく、五感と心を磨く食育として新たな視点をいただきました。非認知能力を育てることの大切さを改めて感じました。
- ★「フードコンシャスネス教育」という言葉を始めて耳にしました。孫と味わい教育を実践、しっかり「食」に向き合ってみようと感じました。
- ★色々な面から教育が取り組まれ、支えられていることを知りました。子どもたちにとってとてもありがたいことです。

# 「教育の魅力化」用語解説

## 【持続可能なおおだ】

「おおだのもつよさ（自然・歴史・伝統文化・遺産・人とのつながり等）を守りつつ、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、大田市民が心豊かに生活できるおおだ。

## 【生き抜く力】

主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、定まった答えのない課題にも粘り強く向かっていく力。

- ①多様で豊かな体験による確かな学力
- ②自立、共生する心
- ③たくましく健やかな体

## 【教育魅力化コーディネーター】

島根県における「教育の魅力化」事業のキーパーソン。県内では約50人のコーディネーターが教育魅力化のために活動中。活動内容や雇用形態は様々。学校の総合的な学習の時間に関わったり、学校経営そのものに重要な役割を果たしたり、部活動や寮中心に活動するコーディネーターもいます。雇用形態も様々。大田市の場合は、事業開始時の平成28年度は大田市の地域おこし協力隊として採用され、会計年度任用職員として活動しています。市町村の雇用ですが、席は各学校にある場合が多く、行政・学校・地域の間を奔走しています。なお、略称はCO。

## 【探究学習】

探究学習は、自ら課題を設定し、解決に向けて、情報を収集・整理・分析したりしながら進める学習活動のことです。生徒の自ら学び、自ら考える力の育成をめざしています。

## 【コミュニティ・スクール】

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を導入した学校のことを指します。学校と地域住民・保護者等がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」をより推進するための仕組みです。CSとも表記します。高校におけるコンソーシアムで構築される協働体制とも重なる部分が多い制度です。

## 【山村留学事業】

1968年に長野で始まった都市と農村の子どもたちの交流事業。大田市では、1993年から小中学生向けの山村留学事業を行っています。夏休み等に行われる5日間の短期山村留学や、北三瓶小中学校に転入し、1年単位で自然体験活動を行う長期山村留学事業を実施しています。

## 【ふるさとキャリア教育】

魅力的なひと・もの・ことに出会い、学ぶことを通して、自分らしい人生を切り拓く力を養います。

## 【キャリア・パスポート】

文科省が推進する小中高で一貫的に行われるキャリア教育事業。子どもたちが自分のキャリア意識を常に振り返ることのできるポートフォリオ（ノート）を持つことで、キャリアに対する考え方や意識を向上させます。

## 【0歳から18歳までの子どもの育ちと学びのめやす】

子どもたちの『生き抜く力』を育てるために、0歳から18歳までの育ちと学びのめやす（大田市統一カリキュラム）を作成し、子どもたちが健やかに伸びていく姿を表わしたものです。子どもの発達段階に応じて付けたい力や関わり合い方等を示しています。

## 【地域学校協働活動】

「地域と学校とが連携・協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく様々な活動」の総称。国が示している活動は「学校支援活動」「放課後子ども教室」「土曜日の教育活動」「学びによるまちづくり」「地域社会における地域活動」等があげられています。

## 【未来志向の教育】

自分の未来に夢や希望のもてる教育。未来を生きる子どもたちに、この社会が将来どう変わっていくかをイメージし、そのために自らがどのような力をつければよいかを考え、チャレンジしていくことを支える教育。





大田市教育魅力化プロジェクト 令和5年度活動報告書  
(令和6年3月発行)

[発行先・問い合わせ]

〒694-0064 大田市大田町大田口1111番地

大田市教育委員会 学校教育課

学事・魅力化推進室

TEL: 0854-83-8179 (直)

Mail : o-gakuji@city.oda.lg.jp

